

ベテラン・中堅・若手、 世代の異なる三者が語る ばんえい騎手の過去と未来。



元トップジョッキーの「ミスターばんえい」こと金山明彦調教師、今日のばんえい界を牽引する中堅実力派の阿部武臣騎手、そして若手として活躍めざましい西 将太騎手。世代の異なる3人に、ばんえい十勝の10年とこれからの語っていただきました。

西 将太 騎手

青森県八戸市出身。平成23年騎手デビュー。父は所属きゅう舎の西 康幸調教師、伯父は西 弘美調教師、いとこに西 謙一騎手がいる。

阿部 武臣 騎手

宮城県大崎市出身。平成10年騎手デビュー。坂本きゅう舎所属。平成27年度騎手リーディング5位。義父は坂本東一調教師。

金山 明彦 調教師

昭和46年～平成11年、中西関松きゅう舎所属の騎手として活躍し、「ミスターばんえい」の異名をとる。19,712戦3,299勝。当時最多勝記録を達成して引退後、調教師に。平成24年～27年まで、ばんえい十勝調教師会会長を務める。

氷を踏むような日々を越え 心機一転のスタート

——存廃に揺れた十年前を振り返って、当時のお気持ちそれぞれをお聞かせください。

金山 あの時調騎会役員が各市に存続を陳情したり、婦人部も署名運動で頑張ってくれたり、みんな大変な思いをしたと思う。

阿部 必死だったよね。高校を出てすぐこの道に入ったから、ほかの仕事は知らないし、結婚したばかりで子どもも小さかったから、ばんえいにならなくなったらどうしようかと生活不安が大きかった。

金山 北見の競馬場で突然ばんえい廃止の話が持ち上がったのが(平成十八年)十月。なんとか帯広と岩見沢の二市で開催する話になり、光が見えたかな、と思ったとたん岩見沢も撤退。帯広の砂川市長が単独開催を表明してくれて存続が決まったけれど、当初は単年度開催だったし、赤字続きなら即廃止という話もあった。毎日水の上を渡っているような生活だったね。

——将太騎手は当時のことは覚えていらっやいますか？

西 自分はまだ静内の高校にいました。廃止になるかもしれないという話は聞いていたけれど、ばんえいの仕事が出来ないという気持ちは変わらなかった。競馬場に入るのは高校を出てすぐの平成十九年。やりたかった競馬の仕事ができてよかった、という思いでした。

——ばんえい十勝になって、競馬場の印象は変わりましたか？

阿部 以前より汚い野次は少なくなりましたね。

金山 そう、昔は野次が多かった。「頑張って」なんていう黄色い声援より、野次のほうがよく聞こえるんだ(笑)。

阿部 昔は競馬場といえば、おじさんたちが赤ペン持って鉢巻きに煙草(笑)。今は女性や若いお客さんが増えて、まわりの雰囲気緩和されてきたよね。

金山 ナイターが始まってから売り上げが伸びて、若いお客さんが増えた。イルミネーションも華やかさがある。ただ、きゅう舎サイドは大変だね。

帯広のコースが生んだ スピードばんえい

——この十年でレースは変わりましたか？

阿部 帯広一市になってから、スピード競馬になったね。四市開催の頃は各市のコースに特徴があって、馬によって得意な馬場が違った。旭川や北見では、ドンケツで障害を越えても、差し込んで一番がとれるレースもあったよね。今は障害で止まったらほとんど勝てない。

金山 帯広のコースは第二障害を降りてからゴールまでの距離が十メートル短いし、砂障害の勾配も小さいからね。騎手にしても、昔はそれぞれ特徴のある乗り方をする人が多かった。

阿部 今は一分半でゴールするけれど昔は三分。平場レースでも二分は早いほうだった。

金山 騎手は、その間にその上でジャンプしたり、いろんな動作ができたけれど、今はその前にゴールする。先に行つて先に逃げてくださいね。

——この十年で馬も変わりましたか？

阿部 スピードタイプが変わってきてるね。

金山 ベルジャン種の血が入ったことで、体は大きくなったけど力が弱いか。やっぱり力があるのはベルシユロン。でも素早い動きができない。

阿部 スピードのない馬は結果を出せないけれど、弱いわけじゃない。走っている馬の方が一見強そうに見える、実際はそうじゃない。今の馬は芯が弱いというか、打たれ弱いところがある。馬も人間と一緒に「ゆとり世代」になっているのかな(笑)。

金山 一方、ここ数年でセンゴクエースのようなスター的名馬も出てきたよね。

失い、可哀そうな部分があった。コトブライアンの場合は、イベントで名前が売れたことや、馬主さんの意向もあって走らせた。でも年齢なりの衰えはある。最終的には馬主さんと調教師がどう判断するかだね。

課題は次世代の若手育成

——現役騎手のお二人が、騎手を目指した動機や憧れの騎手は？

阿部 俺らの時代はボス（金山調教師）に憧れて、ああんりたいと思っこの世界に飛び込んだ。ボスは馬の乗り方から教えてくれたんですよ。

西 僕は父（西康幸調教師）の影響もあり、とにかく馬が好きできゅう舎に入りました。きゅう舎員では物足りなくて、早く騎手になりました。

阿部 将太は競馬場で育ったからね。泥だらけで遊んでた頃も知ってるよ。

金山 心配なのは、そうやって騎手を目指して、きゅう舎員になる若い人がいないこと。だから若手騎手が育ってこない。若手騎手が腕を磨き合うことで、お客さんも

馬の強いところより、もろいところを見つけてどうカバーするか。それができないと勝ち星にはつながられない。

西 若手としては、今はとにかく少しでもうまくやりたい。昔のVTRを見たりして、いっぱい勉強して、もっともっと頑張らなきゃと思う。

阿部 あまり頑張らなくていいよ。まだ俺らが頑張るから（笑）。

喜ぶのに。

阿部 昔は騎手試験を受ける人が三十人くらいいて狭き門だったのね。

金山 確かにきゅう舎の仕事は厳しい。臭いし、朝早いし、馬優先のスケジュールで自分の時間がない。しかも口の悪い調教師には馬みたいに怒られる（笑）。若い人がなかなか来ない。それでも、うちのきゅう舎には毎年大学生や高校生が研修に来る。今年は中学二年生が来て、驚いたのは「きゅう舎員や騎手の給料はいくらですか？」と聞いてきたこと。もう生活設計を立てているんだから、今の子はしっかりしてる。

阿部 馬に触るのは好きでも、仕事となるとダメな人もいるしね。
金山 ペット感覚で馬に接する人は無理だね。先輩に怒られて耐えられない人も。

騎手は馬の能力を信じて乗る

——きゅう舎村での暮らしは？

金山 きゅう舎の暮らしは、住めば都。関係者も口は悪いけど、人づきあいはいい。仲間うちで

騎手をもっとファンの身近な存在に

——十周年を迎え、ばんえい十勝のこれからについて思いをお聞かせください。

金山 きゅう舎関係者は、いいレースをお客さんに見せて楽しんでもらう。それが馬券の売上げや入場者の増加につながる。この根本的なところは、いつの時代も変わらない。やっぱり本場に人が来てくれないと、競馬場の活気がなくなるからね。

阿部 札幌競馬場みたいに芝生席があるといいね。レース見ながら弁当食べるのもいい。家族で来て楽しめるようにね。

金山 お年寄りも来やすいようにゲートボール場を造るとかね。いろいろなアイデアを市民から募集したらどうだろう。騎手について言えば、もっとお客さんと触れ合う場があっていいと思う。間近で話ができ、サインや握手をしても良かったら、お客さんは喜ぶと思うよ。やっぱり騎手は競馬の花形なんだから。

阿部 確かに騎手は手の届かない人だと思われているね。子どもの



しょっちゅうバーベキューやってるしね。

西 休みの日はみんなでわいわい焼き肉。今日食べて、明日もやるぞーって、あちこちで煙が上がってる。

金山 特殊な世界だけど、馬に興味のある子には、入って馴染めば楽しい生活だね。第一に馬が好きでないとこの世界は務まらない。

——騎手にとって馬はどんな存在ですか？

西 仕事を離れると「癒し」の存在。そばにいるだけで落ち着く。

阿部 レースの時ときゅう舎にいる時のギャップがいいよね。きゅう舎ではのほほんと半分居眠りしてるのに、レースに出るとキリッ

とする。

金山 いわば馬に食べさせてもらっているわけだから、愛情かけて育てていく。愛情かけなきゃ育たないし、一人ではできないね。騎手は馬にレースを覚えさせ、調教師ときゅう舎員はちゃんと管理して健康な馬を育てあげないと。

阿部 子育てと同じだね。徐々にいろいろ教えていき、筋力や体力をつけて、作り上げていく。

金山 騎手は自分の馬の能力を信じて乗るし、無理なことはしない。その馬に合った調教をして、それを自分の能力にしていける。

阿部 そう、だいたい二回乗ったら、その馬の能力は把握できる。練習と本番の癖も分かる。そして



親同士の付き合ひの席で「競馬場で馬に乗っている人と一緒に飲むなんて、普通はできないよ！」と言われたことがある。

——今後の抱負をお願いします。

阿部 ファンにいいレースを見せることが一番。それが俺らの仕事だからね。

金山 まず、いい馬を育てたい。それから若手騎手も。今の若手は昔に比べるとすごく上手になってる。背は高いし手足は長いし、体格にも恵まれている。いい騎手に育つと思うよ。途中で挫折することがあるかもしれないけど、周囲の雑音にくじけず、強い意志を

もって思ったことをどんどんやってほしい。

西 若手同士は仲が良くて「こんなことしたらどうだ？」とか話し合うことも多いんです。いつか先輩たちをビビらせるようなことをしたいですね。

金山 怪我だけはしないように！（笑）

